東京方言における広いフォーカスの音声的特徴

−連続する２語にフォーカスがある場合−

郡　　史　郎

1.　本稿の目的

本稿では，東京方言において広いフォーカスが音声としてどのように実現されるのかを「青いマフラー」という例を中心に検討する。

2.　問題の所在

2.1　フォーカス

発話における訴えかけの焦点をフォーカスと言う。理論的には文脈として新しい情報に置かれる「意味論的フォーカス」と，他との対比の上で言う箇所に置かれる「対比フォーカス」が区別できるが(J. Gundel 1999, J. Gundel and T. Fretheim 2004)，対比フォーカスは同時に意味論的フォーカスであることも多い。別の機会にあらためて述べるが，音声としては対比の方がより際だつように発音されがちである。本稿で取り上げるのはテスト文の性質上，意味論的かつ対比のフォーカスである。フォーカスが発話中の一要素（語や文節，またはその一部）だけにあるような場合を狭いフォーカスと言い，ふたつ以上の連続する語や文節全体に置かれる場合を広いフォーカスと言う。

2.2　狭いフォーカスの音声的特徴

東京方言ではフォーカスをどこに置くかによって発話全体のイントネーションが変わる（郡 1989）。狭いフォーカスの場合，フォーカスが置かれる語句（多くの場合，文節）自身が本来持つ高低変化（すなわちアクセント）が少し際だつように通常は発音する[1, 2)]。そして，それより後の語句の冒頭の高低変化を抑える。そのことでそれらの音調的独立性が弱まる。その結果フォーカスの後は平坦に近く発音されるが，これはその前にフォーカスがあることを知覚させるのに重要である（泉谷聡子 2008）。フォーカスより後の語句の音調的独立性が弱まることで，フォーカスがある部分とそれ以降がまとまってひとつの音調句を形成する。ある語句の冒頭での高低変化を抑えることでその語句自身が本来持つ音調的独立性を弱めるように発音することを以下「アクセントの弱化」と呼ぶ。

東京方言話者（女性話者kd）の発音で高低変化の具体的な様相を見ておくと，たとえば「レモンでゼリーを作った」という文を，他の材料ではなくての意味で言う場合は「レモンで」にフォーカスがある。その場合は図1に示すように「レモンで」の高低変化を少し大きくし（つまり，アクセントを少し強め），その後の「ゼリーを」と「作った」の音調的独立性が目立たないようにしている。つまり，「ゼリーを」と「作った」のアクセントを弱化させ，平坦に近く発音している。

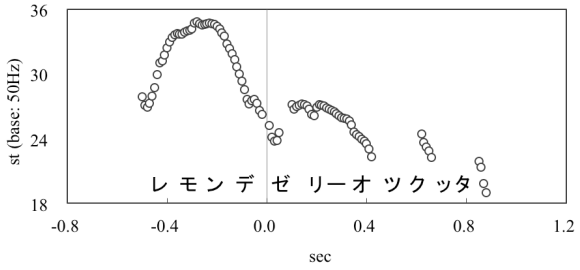

図1　‖レモンでゼリーを作った‖
（「レモンで」にフォーカス）

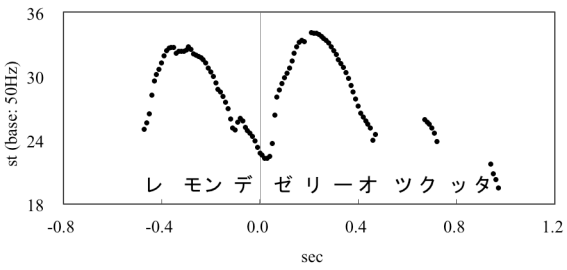

図2　‖レモンで‖ゼリーを作った‖
（「ゼリーを」にフォーカス）

その結果，フォーカスがある文節とそれ以降が音調的にまとまるので，この場合は「‖レモンでゼリーを作った‖」と，全文で1音調句となっている。これに対し，レモンで何を作ったかを問題にする場合は「ゼリーを」にフォーカスが来る。この場合は「ゼリーを」のアクセントは弱化させない。その結果，図2に示すように音調句は「‖レモンで‖ゼリーを作った‖」と2つに分かる。なお，図は縦軸が高さで，50Hzを基準とする半音値(st)で表示している。横軸は時間（秒）で，ここでは比較のために「ゼリーを」の冒頭を0にそろえている。

2.3　連続する2語に広いフォーカスがある場合

では，広いフォーカスの場合はどのように発音されるのだろうか。以下では連続する2語にフォーカスがある場合について，「青いマフラー」（アクセント核の位置を˥で示すと，アオ˥イ マ˥フラー）という例を中心に検討する。

さて，通販で間違って青いマフラーが届いたとき，「**何が**届いたんですか？」に対する答えとして，あるいは「注文したのは**手袋**なのに」の意図で「届いたのはなぜか青いマフラーだったんです」と言うことを考える。その場合フォーカスは「青いマフラー」全体にあると考えられる。これに対し「注文したのは**赤い**マフラーなのに」という状況で「届いたのはなぜか青いマフラーだったんです」と言う場合は，フォーカスは「青い」にある。もし「注文したのは青い**セーター**なのに」という状況ならフォーカスは「マフラー」にある。また，「注文したのは**赤いセーター**なのに」の場合ならフォーカスは「青い」と「マフラー」の両方に個別にあると考えられる。

つまりフォーカスの位置（下線）に関して「青いマフラー」には以下の4つのケースがありうる。

(a) <u>青い マフラー</u>　（全体にフォーカス：「**何**が？」「**手袋**ではなくて」）
(b) <u>青い</u> マフラー　（「青い」にフォーカス：「**赤い**マフラーではなくて」）
(c) 青い <u>マフラー</u>　（「マフラー」にフォーカス：「青い**セーター**ではなくて」）
(d) <u>青い</u> <u>マフラー</u>（「青い」と「マフラー」にフォーカス：「**赤いセーター**ではなくて」）

先行研究によれば(b)の場合は「マフラー」のアクセントが弱化し，(c)の場合は「マフラー」のアクセントは弱化しないことになるが，(a)と(d)の場合はどうだろうか。

郡史郎(1997, p. 200)では，「今日は何を飲んだの？」への答えとして「きょうはドイツのビールを飲んだんだ」と言うとき（上記(a)に相当），「ビール」のアクセントを弱める言い方と弱めない言い方があるとし，弱めない言い方は「ドイツ」と「ビール」に別々にフォーカスがあるという解釈もできる（上記(d)に相当）と述べた。

3. 発話調査

上記(a)と(d)の環境について，実際にどのように発音されるかを知るために，読み上げ形式による発話調査を行った。対照のために(b)も調査項目に加えた。テスト文は以下のものである。

(a) **手袋**を注文したのに，届いたのはなぜか青いマフラーだったんです。
(b) **赤い**マフラーを注文したのに，届いたのはなぜか青いマフラーだったんです。
(d) **赤いセーター**を注文したのに，届いたのはなぜか青いマフラーだったんです。

話者は東京23区および近郊生育の大学生・大学院生12名である。年齢は20歳代から30歳代前半がほとんどで，40歳代女性が1名，うち10名が女性である。録音に際しては，順序を変えてそれぞれ合計6回程度の繰り返し発話を求めた。

この資料について「マフラー」のアクセントが弱化しているかしていないかの判断を筆者が行った。ほとんどの場合は聴覚的に明らかに弱化しているか明らかに弱化していないかのいずれかであったが，中間的なものもあり，そのようなものについてはF0曲線で「マフラー」の高低の山が「青い」の山の半分程度と音響的にも中間的であることを確認の上，「中間的」とした。

集計結果を表1に示す。数値は該当する発話の出現回数である。

表1からわかるように，文(b)については予測どおりほぼ全発話が「マフラー」を弱化させる発音であった。例外が2発話あるが，この程度がこの調査の誤差のレベルと考えられる。

表1　発話調査の結果：　「マフラー」の非弱化発音と弱化発音の出現回数

環境	話者 / 「マフラー」	kd (f)	ymg (f)	atm (m)	sk (f)	okw (f)	trm (f)	sn (f)	stm (f)	ngs (f)	kbm (m)	kn (f)	smz (f)	合計
(b) 赤いマフラーを注文したのに	弱化	6	6	4	10	7	7	7	6	6	6	5	6	76
	中間的										1			1
	非弱化			1										1
(a) 手袋を注文したのに	弱化		4	5	6	6	6	6	6	6	6	4	7	62
	非弱化	6	2	1	4	1								14
(d) 赤いセーターを注文したのに	弱化				4	6	3	9	6	6	5	3	6	48
	中間的			1			6							7
	非弱化	5	6	5	6	1	1							24

文(a)の「手袋を注文したのに」に対しては多くが「マフラー」のアクセントを弱化させた発音だが，弱化させない発音が18%現れた。話者としては5名で，そのうち1名は全発話が弱化させない発音であった。1節末に示した予測からは，この環境では「マフラー」は弱化する場合としない場合があることになるが，これついてはそのとおりの結果になったと言える。

一方，(d)の「赤いセーターを注文したのに」に対しても「マフラー」を弱化させる方が数的には優勢であるが，弱化させない発音が30%現れた。話者としては6名で，うち4名は全発話あるいはほとんどが弱化させない発音であった。弱化させない発話が (a)の場合より多いが，これは「青い」にも「マフラー」にも別々にフォーカスがあるとした場合に期待される発音である。

この発話調査の結果を解釈する前に，知覚レベルではどうなのかを検討しておきたい。

4. 聴取実験

発話調査と同じテスト文(a)(b)(d)を用いて，各文について「マフラー」のアクセントが弱化した音声と弱化していない音声を用意し，どちらが文脈にふさわしいかを選ばせる聴取実験を行った。文(b)については結果は容易に推測できるが，実験結果の信頼度確認のために実験に加えた。

4.1 方法

・テスト音声の作成

横浜市・東京都生育の女性話者skの発音を用いた。「マフラー」のアクセントが弱化した発音と弱化していない発音は文 (b)と(a)の発音を用いた。「注文したのに」「届いたのはなぜか」「ったんです」はひとつの音声を共通に使用し，これに「手袋を」「赤いマフラーを」「赤いセーターを」と2種類の「青いマフラーだ」をはめこんだ音声を作成した。その高低の動きを図3に示す。

・音声提示法と判断内容

各文について「マフラー」のアクセントが弱化した発音と弱化していない発音を提示し，どちらが各文の前半部分で指定される文脈にふさわしいかを複数回答を可として選んでもらった。回答方法の説明と音声の提示には図4に示すようなWEBページを使用した。コンピューター画面上の音声コントローラーの再生ボタンをクリックすると音声が提示される。これを好きなだけ聞きながら，各音声が当該の文のイントネーションとしてふさわしいかどうかを判断してもらった。

・回答者

回答者は東京23区および近郊生育の大学生・大学院生12名，うち3名が男性である。年齢は20歳代から30歳代前半がほとんどで，40歳代女性が2名。ここには発話調査の話者12名のうち8名（表2で下線で指示）が含まれており，その他が6名である。聴取実験は発話調査とは別の機会に行った。

回答者のうち，筆者が同席して静かな部屋で中型スピーカーから提示した音声を聞きながら回答した者が5名，インターネットを経由して聴取・回答した者が9名である。後者の場合，ノートパソコンの内蔵スピーカーで聞いた者もいる。先の5名のうち2名については，中型スピーカー提示による実験とパソコン内蔵スピーカーによる実験の両方を行ったが，回答傾向に差はなかった。

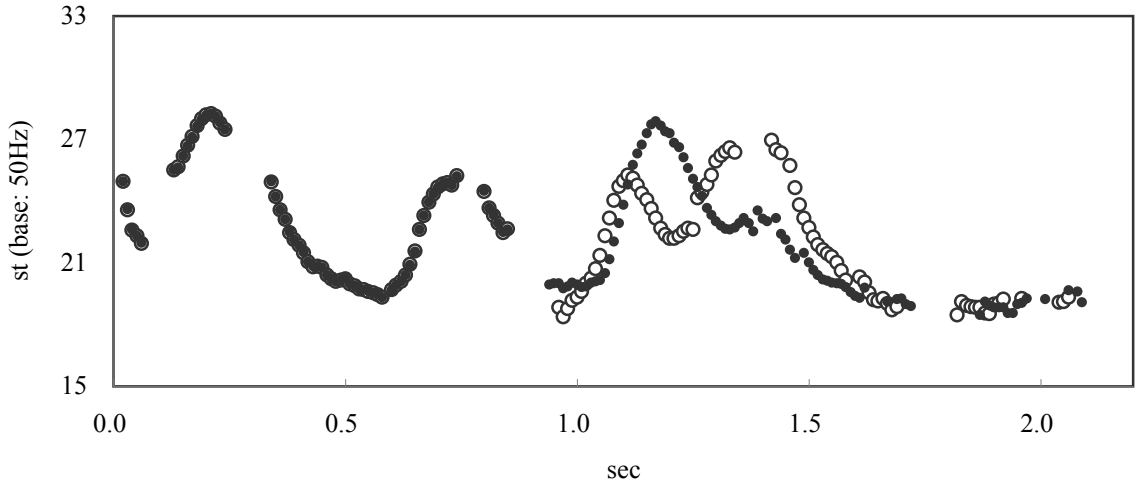

図3　提示音声の高低の動き：「届いたのはなぜか青いマフラーだったんです」区間
○は「マフラー」の非弱化発音，●は弱化発音

(1)「てぶくろを注文したのに，届いたのはなぜか青いマフラーだったんです。」

通販で「てぶくろ」を注文したのですが，なぜか「青いマフラー」が届きました。

そのことを説明するのに「青いマフラー」はどんなイントネーションで言うのがふさわしいでしょう。
AB2種類のイントネーションがあります。それぞれのプレーヤーの左の方にある▲ボタンをクリックすると音が聞こえます。
ふさわしいと思うものの右横のボックスをクリックしてチェックを入れてください。
どちらでもよい場合は両方にチェックを入れてください。

一度チェックを入れても，もういちどクリックするとチェックははずれます。
何度聞いても，何度やりなおしても結構です。

A　→これでよければこちらにチェックを入れてください
B　→これでよければこちらにチェックを入れてください

(2)「赤いマフラーを注文したのに，届いたのはなぜか青いマフラーだったんです。」

こんどは少し違う状況を考えてください。

通販で「赤いマフラー」を注文したのですが，なぜか「青いマフラー」が届きました。 色が違います。
そのことを説明するのに「青いマフラー」はどんなイントネーションで言うのがふさわしいでしょう。
やはり2種類あります。
さっきと同じ答えになっても，違ってもかまいません。あなたが正しいと思う答えを教えてください。

A　→これでよければこちらにチェックを入れてください
B　→これでよければこちらにチェックを入れてください

図4　聴取実験用のWEBページ（部分）

表2　聴取実験の結果：　○はふさわしい発音として選ばれた音声

環境	回答者 「マフラー」	kd (f)	ymg (f)	okw (f)	stm (f)	ngs (f)	kbm (m)	kn (f)	smz (f)	kby (m)	ar (f)	td (f)	tmo (f)	tma (f)	tks (m)	合計
(b) 赤いマフラーを注文したのに	弱化	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	14
	非弱化															0
(a) 手袋を注文したのに	弱化		○		○		○	○		○						5
	非弱化	○		○		○			○		○	○	○	○	○	9
(d) 赤いセーターを注文したのに	弱化		○	○		○	○	○				○		○		7
	非弱化	○		○	○				○	○	○		○	○	○	9

4.2　聴取実験の結果

結果は表2のとおりであった。ここから以下が指摘できる。

・文(b)の「赤いマフラーを注文したのに，届いたのはなぜか青いマフラーだったんです」は「マフラー」のアクセントが弱化した発音がふさわしいと全員が判断している。これは従来の知見からの予測を裏づけると同時に，聴取実験の回答の信頼性が高いことを示している。

・文(a)「**手袋**を注文したのに，届いたのはなぜか 青いマフラーだったんです」と文(d)「**赤いセーター**を注文したのに，届いたのはなぜか 青いマフラー だったんです」については，回答合計で見ると，「マフラー」の弱化発音をよしとする回答も，非弱化発音をよしとする回答もともにある。

回答者ごとに見ると，(a)(d)2文とも同じ発音を良しとする者もあれば，異なる発音を良しとする者もあり，そこに明かな傾向は認めがたい。上述のように回答の信頼性はあると考えられるから，この聴取実験の結果は，(a)(d)のどちらの文脈においても，「マフラー」は弱化させた発音でも，させていない発音でもかまわないことを示すものと思われる。

・発話調査にも参加した回答者が8名いるが，聴取実験の結果は表1に示した発話調査時の発音とはかならずしも一致していない。特に話者okwとsmzは発話調査では(a)(d)とも弱化，聴取実験ではどちらも非弱化となっている。このことも，(a)(d)とも「マフラー」は弱化させた発音と弱化させていない発音の両方が可能であるという解釈を支持するものと思われる。

5. 考察

発話調査の結果と知覚実験の結果を総合すると，文 (a)の「手袋を注文したのに」に対する「青いマフラー」も，文(d)の「赤いセーターを注文したのに」に対する「青いマフラー」も，「マフラー」のアクセントが弱化する場合としない場合があるという点で一致している。これは，(a)(d)のどちらの文脈においても，「マフラー」は弱化させた発音でも，させない発音でもかまわない

ことを示している。ただし，弱化させない発音は(d)「赤いセーター」に対する方がより好まれる。

なお，知覚実験の結果に比べると，発話調査では弱化させない発音の出現率が(a)(d)とも少ないが，これは，知覚実験では弱化・非弱化の2種の発音を対比しながら判断するが，読み上げの際には異なる発音の可能性を考えないで発音するためかと考えられる。

では，なぜ(a)(d)とも「マフラー」を弱化させてもさせなくてもかまわないのだろうか。それは以下のような解釈によって説明できる。

・まず，文(a)と(d)では「マフラー」のふさわしい発音が異なると考える。さもなければ「マフラー」の弱化発音と非弱化発音の出現率・選択率が(a)と(d)で異なることを説明できない。

・次に，「青いマフラー」全体に広いフォーカスがある場合は，「マフラー」のアクセントは弱化すると考える。もし逆に，広いフォーカスの場合は「マフラー」は弱化させないと仮定すると，「マフラー」が弱化した発音が文(a)の発話調査で多数を占めることや，聴取実験でふさわしいと判断されることが少なからずあるという事実が説明できない。その上で，以下のように考える。

・ (a)の「**手袋**を注文したのに」に対する「青いマフラー」の場合は，「青いマフラー」全体に広いフォーカスがあるという解釈の他に，「青い」と「マフラー」個別に，あるいは「マフラー」だけにフォーカスがあるという解釈もできる（「マフラー」だけにというのは，「青い」を言わずに「届いたのはなぜかマフラーだったんです」も可能だからである）。そして広いフォーカスで言う場合は「マフラー」のアクセントは弱化し，「青い」と「マフラー」個別に，あるいは「マフラー」だけにフォーカスがある場合は「マフラー」は弱化しない。これは1節で述べた考え方の延長線上にある。

・(d)の「**赤いセーター**を注文したのに」に対する「青いマフラー」では，理論的にはフォーカスは「青い」と「マフラー」に個別に存在することになる。しかし「赤いセーター」全体に対する対比として「青いマフラー」全体に広いフォーカスがあるという解釈も可能に思える。フォーカスが「青い」と「マフラー」に個別に存在する場合は「マフラー」のアクセントを弱化させず，「青いマフラー」全体にフォーカスがある場合は弱化させることになる。このように考えると(d)の「**赤いセーター**を注文したのに」に対する発話調査と聴取実験の結果は説明できる。

以上の解釈に対して，広いフォーカスは「マフラー」の弱化・非弱化をともに許容すると考えることもできなくはない。しかし，発話調査において「マフラー」が弱化した発音が多数を占めることを考慮すると，弱化・非弱化をともに許容するとしても，基本は弱化させる形であると考えるのが妥当であろう。

連続する 2 語または 2 文節全体に広いフォーカスがある場合は 2 語目（2 文節目）のアクセントを弱化させるというのは，短文の読み上げ時には一般的に観察されることである。それは「青いマフラーを買った」のような形容詞＋名詞の連続に限らず，「ウールのセーターを買った」のような名詞＋名詞にも，「足をくじいた」「頭が痛い」のような名詞＋動詞・形容詞からなる 2 語文にも一般にあてはまる。しかしこうした短文の読み上げでも 2 語目（2 文節目）のアクセントを弱化させない発音が現れることがある。今回の調査の結果から考えると，そうした発音は 2 語目（2 文節目）に，あるいは 2 語目（2 文節目）にもフォーカスを置いた発音だと考えることができる。

6. 結論

「青いマフラー」全体に広いフォーカスがある場合は，「マフラー」のアクセントは弱化させる。すくなくともそれが基本である。そして，連続する 2 語または 2 文節に広いフォーカスがある場合は 2 語目（2 文節目）のアクセントを弱化させるということが一般に言えるであろう。
「青いマフラー」で「マフラー」を弱化させない発音は基本的に「マフラー」に，あるいは「青い」と「マフラー」の双方に個別にフォーカスを置いた発音と思われる。

謝辞

話者の方々，聴取実験にご協力いただいたみなさん，紹介の労をとっていただいた方々に御礼申し上げます。本研究は科研費 20520354 の助成を受けたものである。

注

1) ここで言うアクセントとは，アクセント単位（語や文節，場合によってはその一部）ごとに定まった高さの変化パターンを指す。東京方言の場合，最初上昇し，その後ゆるやかな下降を続け，アクセント核があればそこから急に大きく下降する。ここで冒頭の上昇をアクセントの一部と考えていることに注意（郡 2004）。異なるアクセントを区別するのに重要なのはアクセント核，すなわち急な下降の有無とその位置だが，アクセント核を単にアクセントと呼ぶ立場はとらない。
2) 同時に，その前後へのポーズ挿入もよく行われる。語の末尾や助詞を高めることもよくある。
3) 本稿では「マフラー」だけにフォーカスがある環境の調査は行っていないが，先行研究の知見からこの場合は「マフラー」のアクセントは弱化しないのは明らかである。

引用文献

泉谷聡子(2008)「日本語におけるフォーカスの生成と知覚―東京方言と大阪方言を比較して―」『音声言語VI』 53-66.

郡史郎(1989)「強調とイントネーション」杉藤美代子（編）『日本語の音声・音韻（上）』（講座日本語と日本語教育2）316-342，明治書院.

郡史郎 (1997)「日本語のイントネーション―型と機能―」国広哲弥他（編）『日本語音声2：アクセント・イントネーション・リズムとポーズ』169-202，三省堂.

郡史郎(2004)「東京アクセントの特徴再考―語頭の上昇の扱いについて―」『国語学』55(2), 16-31.

Gundel, Jeanette (1999) "On Different Kinds of Focus." In P. Bosch and R. van der Sandt (eds.) *Focus: Linguistic, Cognitive, and Computational Perspectives*, 293-305. Cambridge University Press.

Gundel, Jeanette and Thorstein Fretheim (2004) "Topic and Focus." In L. R. Horn and G. Ward (eds.) *The Handbook of Pragmatics,* 175-196. Blackwell.